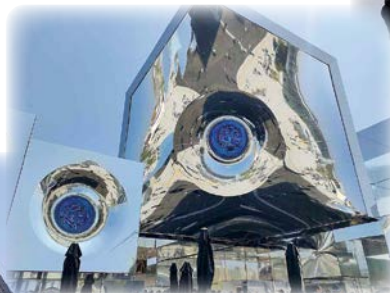
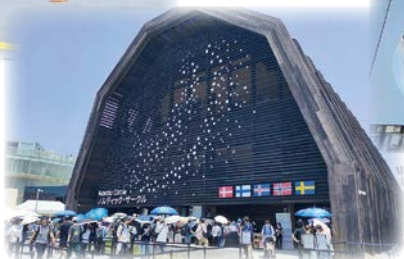


# 大阪・関西万博視察研修へ参加



七月五日(土) 連日好天の下、大阪夢洲に於いて、「国際博覧会」大阪・関西万博が開幕三ヶ月をむかえる中、浪合地区から二十名が参加しました。会場内は「未来社会の実験場」となっており、様々なパピリオン・イベントはデジタル技術と体験型ソノモノと感じました。デジタルチケットの取得から始まり各イベントやパピリオンへの入場予約方法、レストランなどの飲食から自動販売機までがキャッシュレス、コンセプトの通り、既に身近では購買時のキャッシュレス化がすすむ中で、究極の近未来社会を感じました。



公民館報



第 38 号

発行 浪合公民館

編集 公民館広報部

## 浪合の人口と世帯

人 口	452人
男	221人
女	231人
世帯数	229戸
(令和7年11月現在)	



# 大盛況 四〇〇人越え

八月十四日(休)恒例の浪合夏祭りが三年ぶりの晴天の下で開催され「盆過ぎるとコタツがいる」と言われた浪合でも、猛暑が続く毎日、今年の浪合夏まつりは、天候に恵まれ、作年に増して大勢の人数が見られるなか、自治会長小笠原和司氏の発声により、大煙火大会とこども神輿おとな神輿が…笛の音と掛け声響くなかに盆の花火大会と伝統の踊り「のたえ」などがグラウンド中央に置かれた踊り舞台、音頭保存会員に合わせウチワの花がグラウンド狭しと咲き誇りました。こどもビンゴ大会を封切りに祭りが盛り上がり、盆の帰省客など人口の約九割に当たる参加者で盛況のうちに開催されました。



## 阿智の夏まつり



七月二十六日(土)駒場区自治会館前を主会場として、各団体のダンス・踊りを始め、黒丑舞・各地区の神輿行列に続き、灯明神輿や厄年役者による灯明行列が、阿知川の辺で「厄落」と呼ばれる火の輪潜りと火振りを行い祭りのクライマックスとなった。浪合育成会によるこども神輿も出場し、一方、対岸から上がる特大スターマインなど多数の打上花火が、会場中心に周辺の観覧席を包み込むかのように浮かび上がり盛況のうちに開催されました。





## 今年も鳥獣害対策

### 追い払い隊が出勤しました。

主に特産の「とうもろこし」の収穫時期にあわせ、七月十三日から八月十二日の期間、十六名の隊員により、一日二回、述べ六十二人により地区内の村道など沿線に接した農地作物の獣害防止の為にパトロールが行われました。巡回や聞き取り情報では、二十一件とうもろこしなど、三〇〇本の被害が確認されました。今年は圃場脇に工夫をこらした「カシ」の出演でした。防護に一役かっています。最近には防護柵・ネット張りなど、又 猟友会による捕獲柵設置や駆除活動もあり、「群による猿」の被害が減少し、大規模な獣害被害が減少して来ています。毎年行われてきた活動の成果が感じられます。追い払い隊参加の皆さんお疲れさまでした。

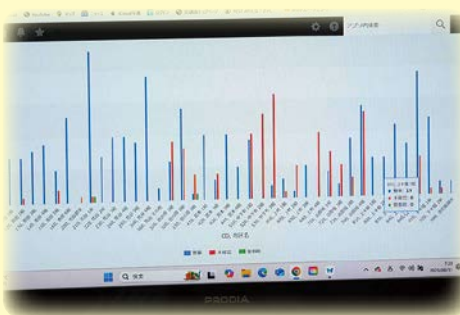


### 山子も一役

## 花壇の整備活動に

### レンゲツツジの会

7月28日診療所前花壇に「日日草・ペコニア・ペンタスなど4種」の苗を植樹し8月の浪合夏祭りの盛会を祈念しました。



八月三十一日(日)浪合自治会防災会は、阿智村一斉防災訓練に併せ、「**安否確認アプリ**」を使用した防災訓練を行いました。地区では四一六名中三五五名の登録があり一時間余の短時間に安否確認ができました。浪合自治会は自治会組織に沿った構成で双方向に情報提供が可能な通信アプリの導入のために自治会役員や主な活動団体をはじめ各部落内でのリアルな情報提供にも役立てることが可能に



なるため登録を勧められています。全地区にはマニュアルが配布されており振興室においても登録のサポートを行っています。安全安心の地域づくりのため登録にご理解とご協力をお願いいたします。



## 武田信玄狼煙リレー

八月三十日(土)治部坂高原蛇峠山頂一六六〇mに於いて狼煙上げが行われました。根羽村から塩尻市の間二十五ヶ所に上げた狼煙がリレーされ一時間余の時間で伝達されます。狼煙ポイントとしては最高地の蛇峠山頂は南アルプスなど眺望が良いポイントですが、故に雲やモヤが眼下を覆い各地狼煙の確認が困難なほどになります。



## レンゲツツジの会 (シニアクラブ)

七月十一日(土)治部坂高原ツツジ園のツツジ株の手入れを行い、増殖を目標に新芽を採取し挿し木による苗(百五十本)づくりを行いました。周囲樹木の拡大の影響により日陰が多くなっている状況、園全体のコーディネートが必要になってきています。今後は、株周りの草取りなどを行いながら防虫対策をし「治部坂高原ツツジ園」の復元など地域活動に絆げる活動を行います。



## 草刈り協力隊

### 今年も出動活躍

七月二十一日(海の日)に村道御所平線の振興室南側からの路肩周辺、十月十九日(日)に治部坂高原馬の背他の周辺の草刈り作業を行い終了後慰労会を行いました。

六月八日(日)、九月十四日(日)宮の原公園周辺、本年二回の路肩周辺の草刈りと清掃を行い地域貢献を行いました。





## 蛇峠山バイキング

六月二十一日(土)

晴天の治部坂高原  
駐車場から遊歩道  
を通り蛇峠山頂ま  
での二時間半を木  
立の中、初夏の浪  
合の涼を体感しま  
した。「阿智セブ  
ンサミット」の一つであ  
る蛇峠山は、一六六四m  
の山頂、中腹に馬の背と  
呼ばれる一四五六m文字  
どおり、馬の背を思わせ  
る草原が広がり、別荘地  
帯を通る車道が馬の背ま  
で、夏場は通行可能と  
なっています。



## 浪合公民館セミナー

## 「浪合に沈んだ武将たち」

講師 定方

晟氏(東海大学名誉教授)



公民館講演会「浪合に沈

んだ武将たち」の講演を受  
けるに当たり事前に少し予  
習してみた。浪合神社に祀  
られている尹良親王につい  
ては、平成八年に浪合村教  
育委員会が発行した冊子  
「浪合村の史跡」では応永  
三十一年八月十五日三河に  
向かう途中、野武士の駒場  
小次郎・飯田太郎に襲撃さ  
れて自害したことになって  
いる(津島市の大龍寺保管  
の浪合記による)。

しかし、浪合では尹良親  
王の命日として四月二十四  
日に浪合神社の祭典がおこ  
なわれている。二年ほど滞  
在していたといわれる御所  
平(御座所跡)もある。一



時身を隠したという隠山滞  
在中に御振筆の大般若経二  
巻が堯翁院に保管されてい  
る等伝承されているものが  
多くあるが八月十五日に襲  
撃されて死亡すればすべて  
あり得ないことになる。

その疑問が今回の講演で解  
決されすっきりとしまし  
た。親王が三河に向かうと  
き駒場村から雷雨降り、午  
後二時頃雨風強く夜のよう  
に暗くなり道が大河のよう  
うで前に進めずわら屋で  
一夜を明かした。「土民た

ち御姿を拝しわずかの御所  
を立ててこのところに移し  
奉る。親王もよろこんで一  
先ずここに身を隠し京都や  
三河のようすを探る」こと  
になる。二年ほど滞在して  
いた応永三年三月二十四日  
(一二四四年)朝六時頃  
飯田太郎・駒場次郎ら野武  
士に襲撃され死亡(自害)  
したとされている。浪合振  
興室に保管されている資料  
の中の浪合記別集に今回の  
講演で説明してくれたこと  
と同じことが記載されてい  
ることがわかりました。

今回の講演については、  
講師 定方先生の浪合記に  
ついての解説書を笹隈哲夫  
さんが入手し、稲垣孝光さ  
んが神奈川県秦野市の自宅  
に伺い講演の交渉をして、  
定方先生高齢(九〇歳)の  
ため自宅までの送り迎えを  
して実現しました。浪合地  
区の大勢の皆さんが受講し  
ていただきありがとうございます。

浪合史跡保存会

近藤 直孝

今回のセミナーの翌  
日には尹良親王の親に  
当たる宗良親王が滞在  
していた大鹿村を訪ね  
ての視察も行われまし  
た。





## ふるさとコンサート 2025



今年もふるさとコンサートが七月二十日(日)浪合小学校体育館で開催されました。今年の演奏者は「リュディク・サクソフォン・カルテット」という女性一人・男性三人のメンバーでした。鑑賞する人

は少なかったですが、一年度の鑑賞を楽しみにしている人が集まり、プロの演奏が生で、そして目の前で聞けるといのは滅多にないので大変良かったと思います。演奏者と鑑賞者が一体となって、手

拍子で歌った曲は良かったです。親しみやすく楽しいトークも良かったです。来年も楽しみにしています。 雅

## バドミントン大会開催

七月十二日(日)浪合小学校体育館においてバドミントン大会が開催されました。毎週の練習成果が発揮されるこの大会は、日頃練習しているメンバーなど当日は十六名余りの参加があり懇親を深めました。



## 浪合戦没者慰霊祭行われる

九月十九日(金)慰霊塔前において戦没者慰霊祭行われ、檀徒総代・遺族代表、自治会役員が参列しました。近藤直孝総代長より追悼の辞続いて、小笠原和司自治会長より式辞が奉読され、戦後八十年今も世界では戦争が繰り返されている、二度と悲惨な戦争を繰り返さないと呼ぶ。堯翁院寺澤住職より香語・読経のなか参列者の焼香が行われました。



## 地域貢献 村道の周辺清掃

トヨタ車体あらざ自然村保養所では全社員で周辺の村道路肩などのゴミ拾いの清掃活動を行いました。本年は、保養所周辺にクマの出没があり警戒する中での営業に苦慮しています。



## 編集後記

戦後八十年、浪合村も閉村合併二十年の節目となり、人口減少などの地域における組織的な活動は旧態依然としたことに気が付きます。伝統文化を継承しながらも「これからの浪合は」に変えて行くことが必要と思います。一人ひとりが声を上げて地域の未来をみんなで創りましょう。 文責